

放射線被ばくを学習する会・第37回学習会

「核との泥沼の戦い・撤退も放棄もできない『廃止措置三兄弟』 ～福島第一・もんじゅ・東海再処理施設」

場所：アカデミー茗台・7階・学習室A

日時：2017年6月18日（日曜日）13：15～17：15／開場13時

進行・配布資料

お話しする前に（背景・問題意識・用語）

第一部・福島第一原発

- －資料1：概要
- －資料2：廃棄物対策（液体・固体）
- －資料3：潜在的ハイリスク一例
- －資料4：人員
- －福島第一原発・まとめに代えて
- －参考資料（配布のみ）：放射性セシウムの放出量・降下量

（休憩）

第二部・東海再処理施設と「もんじゅ」

資料5：日本原子力研究開発機構（JAEA）の概要

資料6：「東海再処理施設」の概要とリスク

- －参考視聴：「東海再処理施設安全監視チーム 第10回会合」動画

資料7：「もんじゅ」の概要とリスク

- －参考資料：「もんじゅ廃止措置基本計画」の概要
- －参考視聴：「もんじゅ廃止措置安全監視チーム 第1回会合」動画

自業自得のリスク—全体のまとめに代えて

お願い1：配布資料中、「(非)」と記載されたものは参加者限りのものです。公開・不特定多数への配布・ネット等での配信はご遠慮下さい。

お願い2：質疑応答の際は、ハンドルネームでも構いませんので、氏名を仰ってから、ご発言下さい。

お断り1：今回の学習会は、オンサイトに関するものです。避難計画等、オフサイトに関する資料は用意しておりません。予めご了承下さい。

お断り2：配布資料は全てを説明する事を前提としたものではありません。

お話しする前に (春橋 哲史／はるはし さとし)

本日は、週末の貴重な時間帯を割いて頂いて、誠に有難うございます。

縁あって、講師役を仰せつかった春橋哲史（はるはし さとし）と申します。

私が「廃止措置三兄弟」と呼んでいる三つの施設の現状・リスク・今後の見通しについてお話しさせていただきますが、その前に、私の背景と、私がこれらの施設を追いかけている理由を簡単にお伝え致します。

1. プロフィール的なこと

3.11 まで

私は、専門の学位や資格（医療・土木・物理等）は一切持っておらず、体系だてで勉強したことも無い素人です。2作のSF小説を出版しているので、ブログには「SF小説家」と書いていますが、3.11以前の事です。第二作も3月一杯で絶版になりました（笑）。

私が小学生の時にチェルノブイリ原発事故が起きました。当時は、親が騒いでいましたが、私自身、チェルノブイリ原発事故のことをきちんと調べたのは3.11後の事です。

核技術の利用には反対でしたが、3.11まで、反対運動に関わったり、政党・政治家への働きかけ等はありませんでした。選挙で投票先を決める際に、参考にしていただけです（棄権はしません）。

3.11 後のきっかけ ⇒2011年12月公表の政府事故調の中間報告書を読んだのが「原点」。

私が初めて、福島第一原子力発電所（フクイチ）の全体像と向き合ったのは、2011年12月に公表された政府事故調の中間報告書を読んだ時です。ネットから、PDFファイルをダウンロードし、年末年始の休みの間、数百頁を貪るように読みました。理解できない用語はネットで検索して調べました。この後、「もっと知りたい」「知らなければいけない」と思いました。

「カルチャー・ショック」 ⇒2012年前半に国会事故調を傍聴し、「直接知る」事の大切さを実感。

フクイチを本格的に追いかけるようになったのは、国会事故調（東京電力福島原子力発電所事故調査委員会）の委員会を傍聴してからです。経産事務次官・松永和夫や、官房長官・枝野幸男、東電社長・清水正孝（肩書は事故当時・敬称略）を生で見ました。「意思決定を下した当事者」を直に見るのは初めてでした。国会事故調は記者会見もノーカットでユーチューブに載せていました。会議や会見をノーカットで傍聴・視聴したのは初めてで、「報道を通じて間接的に知る」のが当たり前だった私にとって「直接知る」のは、一種のカルチャーショックでした。「直接知る」事の大切さを実感しました。

現在に至るまでの経緯 ⇒傍聴を続けて分かってきた、他の施設のリスク。

2013年夏頃から、規制委員会定例会やフクイチに関する検討会を傍聴するのが習慣になりました。その内に、フクイチだけでなく、東海再処理施設と「もんじゅ」も、リスクが高いことが分かってきたので、2016年夏以降は三つの施設の情報やリスク低減の取り組みを追う事を最優先事項としています。

2. 現在の取り組み

「原子力規制委員会定例会」「原子力規制委員会の検討会」「経産省の会議」を傍聴。

「毎週月曜・木曜の東電の定例会見をノーカットで視聴し、東電のリリースも確認」

「フクイチ事故の被害者・避難者が原告となっている訴訟の傍聴（主に「かながわ訴訟）」

「新聞は購読せず、日本のテレビは視聴せず、東電は解約して新電力と契約」

「金曜行動でのスピーチ・ブログ・ツイッターでの情報発信」

3. 問題意識

→過去の責任：3.11 を阻止できなかった有権者であり、核発電による電気の消費者。

→これからの責任：放射性物質を環境中に放出し続けたり、放出させる可能性が高止まりしている原子力施設は放置できない。3.11 時点で生まれていなかった世代や、有権者として意思表示できなかった世代に、責任を押し付けてはいけない。

自分が生きる為にも、核施設のリスクに無関心でいる事は有り得ない。

尚、私は無所属・無党派です。資料中・及び発言中の、意見に関わる部分は私個人のものであり、如何なる組織・個人とも関係のない事をお断りしておきます。

4. 用語

→ 資料や説明で使う用語について、事前にお断りしておきます。

○春橋が勝手に命名・或いは定義している用語

廃止措置三兄弟→「福島第一原発(フクイチ)」「高速増速原型炉『もんじゅ』」「東海再処理施設」を指す。
(詳細は次頁地図を参照)

国民→「日本国の主権者、及び将来の主権者」の意味。在日の人達や留学生等を差別する意図は無い。

原子力→「nuclear」は「核(技術・エネルギー)」とするべきだが、一般的な呼称に従っている。

○略語や専門用語

フクイチ→「福島第一原子力発電所」の略。3.11 後の造語。3.11 前からの略語は「イチエフ」。

O. P (オーピー)→「いわき市小名浜港」の工事基準面。(例:「O. P +6m」は「フクイチでの海拔 6m」)

T. P (ティーピー)→「東京港」の平均海面

フランジタンク→「ボルト締めタンク」。(フランジ=flange/軸や管等の端にある錨[つば]や、そこに取り付ける輪状の金具)

ベクレル (becquerel / Bq) → 「1 秒間に 1 つの原子核が崩壊して放射線を放つ能力(放射能)を表す単位」。放射性物質の原子核が 1 つ崩壊する時、通常、1 本の放射線を出す。
1 秒間に崩壊する原子核が 1 つであれば、1 Bq。原子核が 8 秒間で 400 個崩壊する場合、その放射能は 50Bq。

インベントリ (inventory) → 「放射能の量」(「インベントリが多い・少ない」と使う)。元々は「在庫量」の意味。

立米 (りゅうべい) → 「立方メートル/m³」。体積の単位。水の 1 m³は 1 t にほぼ等しい。

雨水 (うすい) → 「雨水(あまみず)」

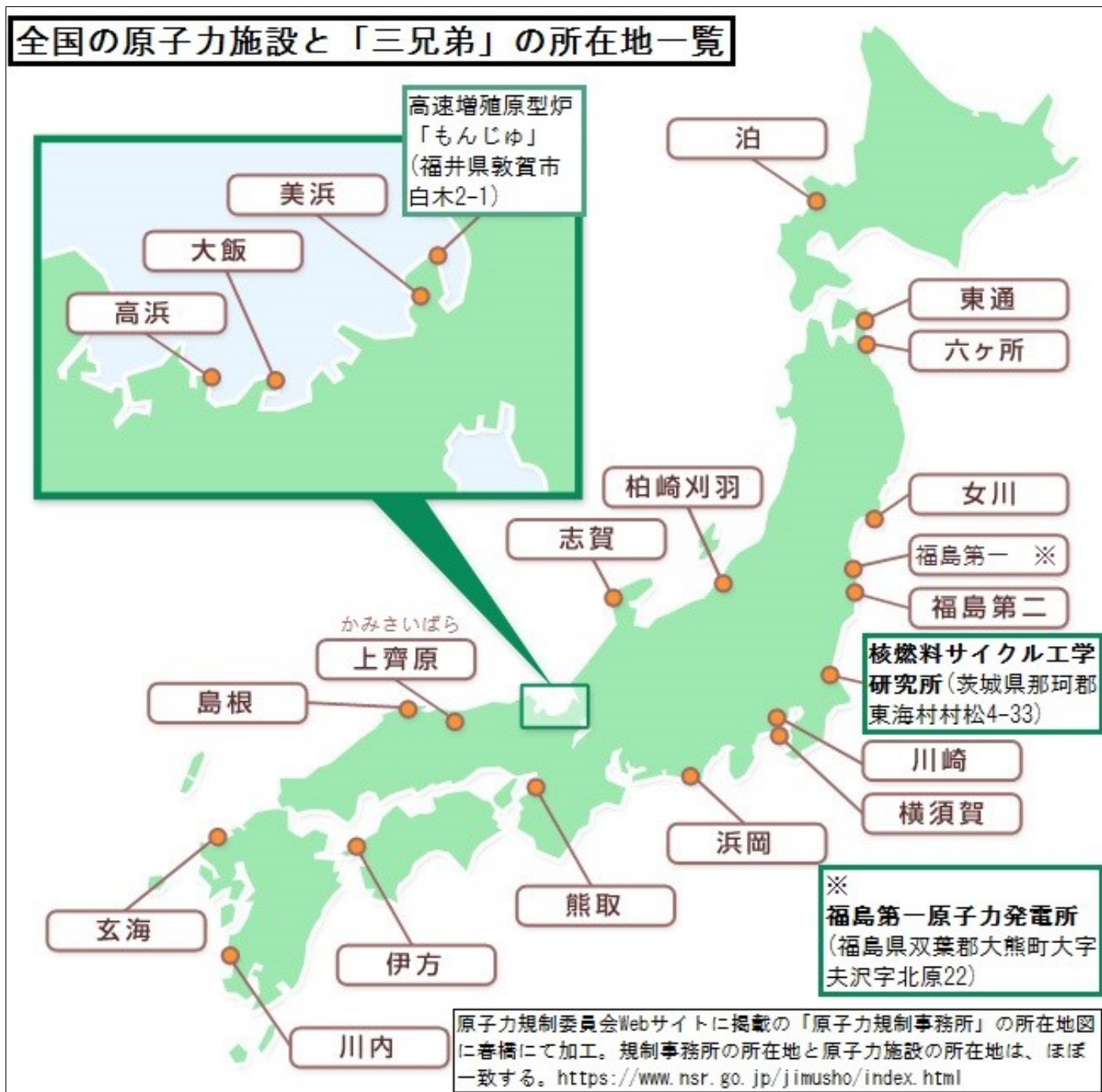
リソース (resource) → 「人員・予算・資材・機材・時間」。直訳すると「資源」。

プライオリティ (priority) → 「優先順位」(「プライオリティが高い・低い」と使う)。

クライテリア (criteria) → 「判断の基準」(「どのようなクライテリアでプライオリティを決めていくか」等と使う)。

オンサイト → 「原子力施設の敷地内」。敷地外は「オフサイト」。

全国の原子力施設と「三兄弟」の所在地一覧



「三兄弟」の概要の概要

- 福島第一原子力発電所(フクイチ) ⇒ 人類史上最大級の核災害を起こした施設の廃止措置。
- 「もんじゅ」 ⇒ ナトリウム冷却型原子炉の廃止措置としては日本初。
- 東海再処理施設 ⇒ 再処理施設の廃止措置としては世界初。

◆共通点 ⇒ 「核燃料(又は放射性廃棄物)を抜き取る目途が立っていない、或いは、長期間を要する」